

議案第 3 号

バスロケーションシステムの導入について

バスロケーションシステムの導入について、次に定めるところによる。

平成 2 8 年 9 月 3 0 日

飛島村地域公共交通活性化再生法定協議会
会 長 久 野 時 男

設備投資（バスロケ・ＩＣカードシステム）について

・バスロケーションシステム

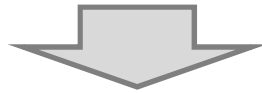
平成 27 年度の村議会で「導入すべき」との意見があり、検討を開始。
これまで、先行事例等を調査。

< 想定される導入候補のバスロケーションシステムの比較 >

三重交通 Bus Vision は、システムの性質から、運転手・営業所での稼働時の対応は必要がないメリットがあるものの、イニシャル・ランニングコスト面でのメリットがない。

エイ・ケイ・システム BusGo! は、他のシステムに比べ価格優位性が高く、他自治体での導入事例が多い。

（特に配線工事等の必要がなく、予備車両への導入もスマートフォンを搭載するだけで対応可能）



< 対応の方向性（案） >

過去にも導入要請があり検討した経緯があること、当時と比較し非常に導入価格が安価になったこと等をふまえ、導入に向けて対応を進める。

（ダイヤ変更とあわせて導入を進める）



平成 28 年度第 1 回 バス検討委員会（H28.8.17）より

・導入について異議なし。検討委員会にて合意した。

バスロケーションシステムの導入コスト比較表

金額は税抜

		三重交通 Bus Vision		ドコモ docoですcar forBUS			エイ・ケイ・システム BusGo!				
		単価	数量		単価	数量	合計	単価	数量	合計	
イニシャルコスト	車載器	-	9台分	初期費用	300,000円	1式	300,000円	路線データ作成費用	195,000円	2路線+11系統	195,000円
	通信機	-	9回線	電源ケーブル	8,000円	9個	72,000円	車載スマートフォン	30,000円	9台	270,000円
	初期設定等	-	1式					予備車両用周辺機器	6,000円	オプション	-
			4,972,000円		372,000円			465,000円			
ランニングコスト	月額基本料	-	1式	docoですcar標準プラン5年契約	4,500円	9台	40,500円	使用料	2,980円	9台	26,820円
	管理ID利用料	-	1式	docoですcar forBUS	3,600円	9台	32,400円	予備スマートフォン貸出費用	2,980円	1台	2,980円
	通信サービス利用料等	-	1式	ユニバーサルサービス料	2円	9台	18円				
			50,400円/月		72,918円/月			29,800円/月			
			604,800円/年		875,016円/年			357,600円/年			
導入事例	三重交通			群馬県高崎市			埼玉県深谷市 茨城県取手市 茨城県牛久市 千葉県香取郡多古町 群馬県伊勢崎市（実証実験） 埼玉県上尾市				

表示画面と機能

表示選択ボタン
選択画面に戻る

路線図・時刻表・運賃タブ

乗車開始所	大人	小人
本町2丁目 停留所	200	100

時刻表・運賃表に切り替え

マップの拡大・縮小

お知らせボタン
バス会社からのお知らせ

お知らせ
消費税引き上げに伴い、平成26年4月1日より運賃を改定致しました。
■大人普通運賃 一律190円→200円
お客様のご理解賜りますようお願い申し上げます。

ご意見・ご感想などが御座いましたら、下記メールアドレス宛にお願い致します。
e-mail: busgo@ak-system.co.jp

表示選択

BusGO!

お知らせ

路線図 時刻表 運賃

バス

対向路線バス

選択バス停

路線内バス停

時刻表・運賃表に切り替え

マップの拡大・縮小

バスの走行位置、到着目安

バス停アイコンタッチで周辺情報を見る

バスへの設置方法

- シガーソケットの取り付けをお願い致します
- 窓の近くにスマートフォンホルダーを取り付けます
- スマートフォンを固定し、充電ケーブルを繋げば完了です



他車両へ移設する時は…

搭載しているスマートフォンを載せ替えるだけで完了です。



・ I Cカードシステム

バスロケーションシステムの導入検討にあたり、むしろ、I Cカードシステムの導入を優先すべきとの指摘があり、導入費用等について調査検討を行った。

<新たにI Cカードシステムを導入する場合に必要な経費>

	レシップ	消費税別:千円 小田原機器
1、運賃箱	1,070	1,125
2、乗車リーダー	100	100
3、配線等必要経費	19	18
(小計)	1,189	1,243
4、後方処理必要経費分担(26.1%)	310	324
(合計)	1,499	1,567

- ・三重交通株提供
液晶運賃表示機、音声合成案内が導入済みであること。

現状の投入台数(9台) × 約150万円 = 1,350万円+消費税等

<その他諸条件>

現在の導入車両は、平成21年度に調達。7年経過。今年8年目。
 会計上5年で減価償却を終えており、定期点検を通して、長期利用を進める。
 (耐用年数は概ね12~15年。15年以上利用するケースもあり。)
 三重交通が対応するその他自治体・コミュニティバスでは、導入予定なし。
 地域公共交通確保維持改善事業費補助金の活用
 (利用環境改善促進等事業・補助率1/3)
 ・I Cカードシステムの導入は、訪日外国人観光客(インバウンド促進)対応時(多言語化)のみ対象となり、通常のシステムは補助対象外。補助金利用は見込めない。
 (車両減価償却費等国庫補助金・補助率1/2)
 ・I Cカードシステムを設置した車両については、運賃箱は減価償却費(補助金)対象、システムのリーダーは対象外となる。車両購入時であれば、上記の運賃箱分は補助対象になる。
 現行の飛鳥バスの運賃箱(小田原機器)は旧型でI Cカードシステムを後付できないタイプで、導入に当たっては、新しい運賃箱に置き換える必要がある。
 地域公共交通網形成計画に位置付けていなくても個別補助金申請を行えば対応可能。



<対応の方向性(案)>

他自治体コミュニティバスでの導入はすすんでいない。
 経費削減から補助金の活用を行うには、車両購入時であれば運賃箱に適用される補助金の活用が見込まれる。あと数年で、車両更新する必要があり、その際にI Cカードシステム対応することが望ましいと考える。



平成28年度第1回 バス検討委員会(H28.8.17)より

- ・車両導入時に再度検討することとして確認した。